

JOMF 派遣医師便り (2015. 2)

◆マニラ◆

肥満児では“小児でも心臓の拡張機能異常が認められる”

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

フィリピンのテレビコマーシャルを見ていると頬っぺたがふっくらした愛らしいお子さんが出演しているものがとても多く見られます。時に健康優良すぎる可愛いお子さんも出演しています。肥満は裕福さの象徴のように思われているのでふくよかな子役は人気があるのでしょうか。成人の肥満は糖尿病や脂質異常症、高血圧症などを引き起こし、致命的な心臓・脳血管疾患につながることを皆さんもご存じだと思います。同様のことが小児・児童においても言えることが分かっています。子供であっても肥満が糖尿病や脂質異常症、高血圧症を引き起こし大切な臓器の動脈硬化へと進行していきます。そして将来的に心筋梗塞や脳卒中を起こすリスクを高めることが分かっています。

今回、肥満児における心臓機能障害に関する論文を見ましたので、疾病予防の観点から紹介させていただきます。

「肥満児には心臓病の初期病変がすでに出現している」というドイツの論文が米国心臓病学会から紹介されていました(2014年10月)。研究は肥満児と非肥満児を対象に行ったもので、「肥満児では心臓超音波検査で心臓拡張機能が低下している」というものです。

ここで小学校理科の授業を思い出してください。心臓は収縮と拡張を繰り返し、体中の臓器に大切な血液や栄養を送り出しています。心臓には心房と心室があります。

この論文が示しているように心室の拡張機能不全が起こると、心房からの血液を心室がうまく汲み取ることができず、心房に血液が滞りやすくなります。結果として不整脈が出やすくなり、肺や全身の臓器に浮腫やうっ血が起こりやすくなります。今回の結果は、このような病態が成人のみでなく肥満児においても起こることを示しています。

マニラに居住している環境下で食事療法や運動療法を行うのは実に大変なことだと思いますが、小児期でも肥満治療は重要であり、できるだけ早いうちに治療を始めることが大切です。将来の致命的疾患予防のためにも日ごろから食事・運動療法などを心がけましょう。

どうぞお大事にしてください。